

令和元年度 仁比山小学校 学習状況調査の結果と考察

		国 語	社 会
12月実施の 学習状況調 査の成果と 課題	成果	<p>・4年生は、すべての観点で、県平均を上回っている。特に「話す・聞く」では県対比で1.15であった。聞いた事柄をもとに分からない点を質問したりする問題の得点が高かった。</p> <p>・5年生は、「話す聞く」が1.08と県を上回った。意図を明確にし、話し合いを計画的に進める問題は、県より20%以上上回った。</p> <p>・6年生は、「読む」観点では1.20と県平均を上回った。叙述を基に登場人物の心情の変化を捉えることは県正答率を大きく上回っていた。</p>	<p>・4年生は、全体で0.97と若干下回ったが。販売の仕事の問題の正答率が高かった。</p> <p>・5年生は、「知識・理解」と「技能」は県平均を上回った。県の様子、国土の样子の得点が高い。</p> <p>・6年生は、「思考・判断・表現」で1.34と県平均を大きく上回り、到達基準の十分達成もクリアしている。江戸幕府が行った大名配置について説明する問題では、県が41%の正答率のところ、71%の児童が正答していた。織田信長が行った政策を問う問題では100%の児童が正答していた。</p>
	課題	<p>・4年生は、「語句に関する知識」が県対比「0.98」と若干下回っている。修飾と被修飾の関係性、ローマ字はあまり点数が取れていない。スキルの時間や復習の時間を使って定着を図っていく。</p> <p>・5年生は、「読む」が0.96と最も低く、目的に応じて事実と考えを区別して書くことを苦手としている。また、4年生と同様に「知識・理解」の中で、修飾と被修飾の関係性に課題が見られる。読書量を増やし様々な文章・文体に触れる機会を作る。</p> <p>・6年生は、「知識・理解・技能」が0.97と若干下回っており、敬語の使い方・四字熟語の構成の得点が伸び悩んでいる。敬語を使う機会を作るとともに、スキルの時間を使って定着するようにしていく。</p>	<p>・4年生は、身近な地域に関する内容が0.93と県平均を下回っている。主な地図記号を理解できていない児童が多かった。フラッシュ等を使っての復習が必要である。</p> <p>・5年生は、「思考・判断・表現」が0.91と低かった。日本の気候の特色や米の品種改良の問題の得点が低かった。宿題・プリント等で繰り返し学習して定着を図る。</p> <p>・6年生は、明治時代の政策や明治維新のときの出来事の理解を問うの得点が低かった。定着の図れていないことは、プリント等で繰り返し学習して定着を図る。</p>

教科・調査年月		算 数 ・ 数 学	理 科
12月実施の 学習状況調 査の成果と 課題	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生は、「技能」が県対比0.97と一番高かった。小数の加法「数と計算」の問題はほぼ県平均と同程度だった。 ・5年生は、四則が混合した計算の問題や平均を求める問題は比較的高かった。 ・6年生は、「考え方」「技能」は、県平均と同程度であった。分数の四則計算の問題は正答率が高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生は、ほぼ県平均と同じである。「知識・理解」が比較的高めで、温度計やはかりの適切な使い方、ものの性質など問題の正答率は高い。 ・5年生はすべての観点で県の平均を上回っている。特に顕微鏡等の実験器具の使い買ったよく理解できていた。植物やメダカの成長の様子はきちんと理解できている児童が多かった。 ・6年生は「思考・表現」が県平均も到達基準も上回っている。条件制御をして、実験を構想する問題の正答率が高くなっている。科学的な見方や考え方が身に付いてきた。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生は、観点別では、「考え方」が0.72と低かった。内容では「量と測定」領域の正答率が0.79と低かった。与えられた情報をもとに考えたり説明したりする問題に課題が見られる。話し合いの内容を高めていくような指導をしていく必要がある。 ・5年生は、「技能」が県対比0.79と低かった。小数の除法の技能や最大公約数を求める技能が十分定着していない。授業時数を調整し、復習の時間を作るようにしたい。 ・6年生は、昨年度よりは大幅に正答率が上がった。(0.75→0.94) 1当たりの大きさを求める問題、速さと道のりから時間を求める問題が低かった。また、問題と図を関連付けて考える問題は正答が1割以下だった。5年生同様、復習の時間を設けて定着させていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生は「思考・表現」に課題が見られる。情報を分析してより妥当な考えを作り出す問題は3割以下の正答率であった。情報を整理して他の情報と関連付けながら考察することができていない児童が多い。 ・5年生の課題にあげられるのは正答率が5割以下の問題である。4年生の時に学習した内容が多く、きちんとした知識や技術が定着するような時間を作る必要がある。 ・6年生は「思考・表現」が県平均も到達基準も上回っている。条件制御をして実験を構想する問題の正答率が高い。どの学年も実験・観察をして終わりではなく、きちんと知識・技能として定着させるための時間を持つようにしていく。